

(様式第4号)

第3回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	平成30年1月24日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	金山会長、若林副会長、飯島委員、尾和委員、神原委員、倉澤委員、小池委員、清水(綾)委員、清水(孝)委員、春原委員、寺田委員、中澤委員、宮下委員、山寄委員、下村委員、瀧本委員、畑中委員、(欠席委員) 高橋委員、寺尾委員、中村委員
5 市側出席者	小林健康こども未来部長、石井健康推進課長、細川保育課長、高木学校教育課長、山賀子育て・子育て支援課長、遠藤母子・精神保健担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、小山障がい者支援担当係長、白鳥放課後こども育成係長、市川雇用促進係長、三井住宅管理係長、久保田男女共同参画係長、中村子育て・子育て支援担当係長、遠藤子育て・子育て支援担当係長、清水子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年1月26日

協議事項等

1 開 会 (山賀子育て・子育て支援課長)
2 議 事
(1) 計画見直し案に対するパブリックコメント実施結果について 資料1について説明
以降、御意見
(委員) 人数が多い園の劇について、あらゆるところでこのような状況がある。保育内容を充実することで役立ててほしい。
(委員) 一時預かりについて、当事者の意見と市の回答がかみ合っていないのはどう理解すればいいか。
(事務局) 利用している人には、園で説明をしている。理解いただけるよう説明していくようにしたい。
(委員) 全国的に未満児保育の需要が高まっている。どこの自治体でも共通の課題。リフレッシュの中には虐待や自分を追いつめてしまう保護者がいる。大切な問題なので、どうしていけばいいのかを保育所だけでなく、地域の中で補完的な役割をどうやったら作り出せるのか委員の皆さんの知恵を借りながらつくっていかねばいけない課題と感じた。
(委員) 一時預かりの問い合わせが多い。

実際は1か月前からの予約開始なのに、2、3か月先でも断られたという話を聞いた。
公平公正にやっているということを数字などで示せたほうが良いと思う。

(委員)

個々の保育園の負担が心配になる。
一元化は難しいと思うが今後の課題として取り組んでほしい

(委員)

人工呼吸器をつけていたり、胃ろうなどでNICU（新生児特定集中治療室）からGCU（継続保育治療室）に移った子が全国で約17,000人いる。H28に児童福祉法の一部が改正され医療的ケアが必要な子どもが適切に支援を受けられるよう、自治体において保健・医療・福祉等の連携に努めるようにとされたが、市ではどのように考えているか。

(事務局)

看護師がいる保育園は現在ない。私立で対応している園があるのでそちらを利用してもらうよう話をしているが、今後考えていかなければいけない大切な課題であると感じている。

(委員)

医療対応できる人材の確保、適切な対応ができるシステムの構築、支援をお願いしたい。

(事務局)

本年度、障がい児福祉計画を策定しており、医療的ケアの必要な児童に対して、保健・医療・福祉が連携した支援を行っていくこととしている。こども病院から退院してくる医療的ケアの必要な児童に対して、関係機関と連携した在宅支援ができるよう、コーディネートができる人材の確保を進めていく。

(2) 上田市子ども・子育て支援事業計画の見直し（案）について

パブリックコメントによる見直し案に修正内容はなし。

(委員)

3号認定の30年度の実際の利用申請の数字と見直し計画との数字は整合性がとれているか。

(事務局)

30年度3号認定入園申請700件、在園児730名、転出・キャンセルも相当数あり、計画値に収まる見込み。

・承認（委員）：計画見直し（案）について承認いただいた。

(3) 意見交換

(委員)

小規模保育の良さを感じている。傍陽は保育園と小学校の場所も近く交流ある。兄弟関係も多い。
それぞれの良さを大切にしてほしい。

(委員)

小規模のよさもあるが保育士の資質を上げることが大事と考える。

(委員)

上田市にはお産のできる病院が2つ並んでいるが、非効率ではないかと思っている。

(委員)

他市町村では認定こども園が増えている。上田はどんな方向性なのか。
キッズうえだみなみは一時預かりで、インフル等で当日キャンセルが多いときなど空きが出れば随時受け入れている。

(委員)

上田商工会議所では、子育てと介護を両立できるような働き方改革のセミナーなどの取組みしていきたい。

地域でこどもを育てる必要感じている。商工会議所として安心して働けるよう働きかけをしていきたい。

(委員)

大企業が学生を囲い込んでいるので、地方の中小企業には回ってこない状況にある。
学生の意識変化が著しく、企業の子育ての支援や働き続けることができるかに着目してきている。
上田市に残ってもらえるような特徴ある市政であってほしい。

(委員)

少子化で丁寧に育てられてきている子どもが多いため、子どもに手がかかる。児童クラブも人手不足を感じる。

児童クラブは、学校から解放されてきた子どもたちを、親が迎えにくるまで気を付けて預からなければならない。何十人もいる中で障がいのあるお子さんもいる。祖父母がそばにいても手がかかるから見てもらいたいという家庭が多い。家庭の中が一番大事だということを伝えていきたい。

中高生の居場所を考えていく必要を感じている。

(委員)

会社でも人手不足の問題があるが、上田は東京に近く自然がある環境のいい地域なので、企業が進出し、人が戻り集まるところであってほしい。

(委員)

放課後児童クラブは2015年度から新しい制度がはじまり、資格を持った人が配置されなければならなくなった。

2017年度の認定資格研修の講師に上田の支援員が3人講師として行っている。長野県のレベルに関わる職員がいる状況を報告したい。

(委員)

ニュージーランドではお互いがお互いの子を見る「相互保育」があり関心を持っている。見ながらスキルと資格がついてくる。ユーザーであり人材になれるため、預かりの保育士不足も解消できる。
お母さんだけでは足りないアイデアや専門知識を市や専門家を交えて話ができたらいいと思う。

(委員)

子育てひろばでも入園に関する質問が多い。3歳から希望の園に入るのが難しい、第5希望まで書くと聞いて不安が多い。3歳まではできれば家でみられるといいとは思いますが、家庭の事情でなく、3歳では入りにくいから未満で入れたいと考えている人がいる。上田市ではどうなのかと聞かれたらどう答えるのがいいのか。

(事務局)

地区によっては希望の園にならないことはあるが、3歳以上はそれほど入れないことはない。

1、2歳は希望の園にならない現状はある。育児休暇明けの人への対応は行政でしっかりやっていきたい。

(委員)

幼稚園教諭は忙しい中頑張ってやっている。

花壇に「入らないで」と書いていたが歩ける花壇にしたらアスペルガー傾向の子にいい影響があった。質の向上は賛成するがそういうところに時間をかけたくても時間がない。「研修を充実するために何をするのか」というところに踏み込んでほしい。自己責任ではなく環境・お金で支援があるといい。

(委員)

パブリックコメントをした人のリアルニーズは何か、問題は違うところにあるのではないか、そこまで踏み込まないと解決できないと感じた。

児童発達支援センターの利用者が増えている。就学してもデイサービスや学童などへうまくつなげていかれない。地域でうまく循環をつくっていかないと飽和状態は解決できないと危惧している。トータルな視点でどう方針をたてればいいのか市がリーダーシップをとってほしい。

学生が未熟な状態で現場に入っている、苦しい思いをしている。離職せず育っていくシステムを構築していかないと厳しいと感じている。いろいろな視点で支え合う仕組みができるといい。

(委員)

自身は預かりやサポートを利用したことがなかったが、可愛い我が子でも息が詰まることはある。逃げ道がない親に公共の預かりが受け皿になるといいと思う。なるべく利用しやすいものであってほしい。申込書も紙ではなくネットでできるとありがたい。

(委員)

利用しやすい施設型病児保育を上田市が前例になるような環境でつくってほしい。

(委員)

子育てひろばが充実していると感じる。児童センターへ学校から直接来る子どもが増えている中で、時間を延ばしてほしいという意見があるが、子どもたちにとってはどうあることがいいのか、両親が子育てに関わるのが大事なのではないかと思うので、親の働き方が変わる世の中になってほしい。

3 その他

平成 32 年度以降の計画を 31 年度までに行う。平成 30 年度以降ニーズ調査を実施し、会議で審議いただき策定する予定。

委員の任期は平成 30 年 7 月 20 日。団体役員変更などを除き 7 月以降も委員をお願いしたい。

4 御礼あいさつ (小林健康こども未来部長)

5 閉会